

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光ビジネス実務演習 Seminar on Tourism Business		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
トラベルコーディネート				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
トラベルコーディネート				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤優子	2階	水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
この科目は、海外旅行に関する基礎知識を身につけていく。出入国法令（旅券・査証・免税システム・出入国手続き・検疫・税関）の基礎を学ぶ。2レターコード、3レターコード、時差計算、OAG（国際航空時刻表）の読み方などを習得していく。				
授業の目標				
①海外旅行の基礎を身につけることができるようにする。 ②出入国に関する知識を習得できるようにする。 ③海外旅行の流れと必要な手続きについて習得できるようにする。 ④時差計算をできるようにする。 ⑤国際航空時刻表を読解できるようにする。 ⑥航空コードを習得できるようにする。				
授業の方法				
2冊の教科書を使用し、出入国法令に関わる内容と海外旅行実務に関わる内容を前半・後半に分けて進めていく。				
学習の成果（学習成果）				
①観光現場で求められる海外旅行の基礎知識を習得することができる。 ②旅券法、査証、検疫、免税に関する実務を習得することでき、海外旅行に必要な時差計算ができるようになる。 ③国際航空時刻表から特殊な記号や読み解く力を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	海外現地事情			
第2回目	旅券法			
第3回目	出入国手続き			
第4回目	査証			
第5回目	動植物検疫			
第6回目	税関手続き			

第7回目	2レター・3レター 時差計算の基礎	
第8回目	時差計算 小テスト	
第9回目	国際航空所要時間計算	
第10回目	国際航空時刻表の基礎 小テスト	
第11回目	海外旅行実務 (ホテル)	
第12回目	海外旅行実務 (クルーズ)	
第13回目	海外旅行実務 (シェンゲン協定・ユーロ使用国)	
第14回目	時差計算・国際航空所要時間計算 小テスト	
第15回目	海外旅行実務全般	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	小テストを実施する。(第8回目・第10回目・第14回目) 復習が必要となってくる。
試験	50%	出入国法令、海外旅行実務全般の学習度を図る。S評価の基準：S=90-100
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
出入国法令と実務 (JTB総合研究所)、海外旅行実務 (JTB総合研究所)		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用禁止。飲食厳禁。		